

地域における当認知症疾患医療センターが果たしている役割とアウトカムの定量的評価

1. 研究の対象

平成28年4月1日～平成30年7月31日当院認知症疾患医療センターを受診された方

2. 研究目的・方法

群馬県認知症疾患医療センターの役割として地域住民からの相談受付、適切な診断の実施、身体合併症を有する患者への対応があげられます。私たちは、地域の関係機関との連携が大切であり、まず、スムーズなセンターへの受診を地域の方に提供したいと考えています。また、認知症の方は不安定であり、容態に応じた適時・適切な医療・介護を提供につながる努力をしていきたいと考えています。これは国が進める認知症政策「新オレンジプラン」の骨子でもあります。そこで、当センター開設後の電話相談件数、専門医療相談件数、受診件数、鑑別診断結果と件数、臨床心理検査結果を分析し、今後の地域関係機関との連携の構築を推進していきたいと考えます。そのためには、我々の提供するサービス、診断・医療を単に各々の資源整備に係る数値目標だけでなく、アウトカムの指標のありかたについても検討し、できる限り定量的な評価を目指し、自己の点検・評価を行うといった自己の診療の振り返りが大切と考えております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 医療連携に関して：電話相談件数、専門医療相談件数、受診件数を調査
- 2) 適切な診断：患者背景、現症、検査結果（採血、画像：CT/MRI、SPECT）から行った診断結果
- 3) フレイル患者：患者背景、現症、検査結果（採血、画像：CT/MRI、SPECT）から行った診断結果

以上1)～3)を背景因子とし、1年後のアウトカムの因果関係を検証します。これらのデータは診療録、記載のない場合は、電話によるアンケートで実施させていただき、多数の方にご協力をいただきました。

これらから、医療連携において重要なものはなにか、我々の診断の正確性（認知症の種類によっては経過を見てもないと判断できないものがあるからです）、介護支援の在り方について検証し、当センターの医療の質の向上、新たな医療への貢献、そして、地域への貢献へのつなげたいと考えております。

なお3)フレイルに関しては、高齢化社会にあって、生理的老化から、病的老化に移行している状態であり、認知症、脳血管イベント、がん、肺炎など生じやすい状態であり、地域の方に知っていただきたい病態です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 群馬県認知症疾患医療センター

〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町 366 番地

Tel. : 0270-24-3355 FAX : 0270-24-3359

研究責任者：

公益財団法人脳血管研究所 群馬県認知症疾患医療センター長

神澤 孝夫